

魅惑のささやきで
いずみホールにアルト
向井和美

私は西本智実さん指揮による、武道館の「第九」を歌いたいが為に、ご縁もあって「大正フロイデ」で練習を始めました。

その目的は達したのですが、その後友人の「次はモツレクやよ！いずみホールやよ！」という魅惑のささやきに負け、無謀な挑戦をした訳です。

どなたか書いていらつしたように、人前で何かを演じるという事は、その過程が山登りに似ているのです。

しかし、この山に登ろうとした時に、麓に立ちそびえ立つ頂上を見上げ、あそこにも立つのは自分にはとても無理と思い、西本ひろみ先生に泣き言をいい、友人にももう辞めると言ってみたりしました。

でも、一歩一歩足を前に出していると、何だか行けそうに思える日があり、息切れしながらも、ようやく頂上にたどり着く事ができました。

歌っている最中には「モーツァルト・レクイエム」の曲そのものが持つ靈性に心が震え、自分自身が消えてしまいうような深い感覚を味わいました。

震災で亡くなった方々や、身近な死者達のことを想い、祈りながら歌いました。私にとつて団体とはいえ、人前で歌を歌うなどという生涯あり得ない経験をさせて頂き、下手は下手なりに沢山の得るものがありました。

「ドイツ」という山に登るかどうかは、また麓に立った時に考える事に致しました。

「モツレク」の他にも
嬉しかった「手話コーラス」ソプラノ
村上裕美

今年の二月、東成区第九を歌う会の本番終了後、「もう一度第九を歌えるように」という言葉に誘われて、初めて大正フロイデの練習会に参加しました。本番直前に急に参加したにも関わらず、大正の皆さん

んが温かく迎え入れて下さったのが、とても嬉しく印象的でした。

そしてその時、第九と共に練習されていた「モツレク」に衝撃を受け、「私も大正の人達と一緒にモツレクを歌いたい！」と思うようになりました。

でも、仕事が繁忙期に入つたため参加できず、一旦は諦めたのですが、五月に落ち着くとやっぱりモツレクへの思いが再燃、結局六月から正式に入会しました。

本番までの約三ヶ月はモツレク漬け、通勤中も仕事での移動中も勿論！ずっとレコーダーを聞きながら、皆様に追いつくよう頑張りました。

モツレクの他にも嬉しかったのは手話コーラス、時々手話通訳として活動している私にとつて手話コーラスは久し振り！

聴覚障がい者の方にもコーラスの楽しさを伝えたいなあ：：：と思いながら大正の皆さんを差し置いて舞台前で歌わせて頂きました。

「モツレクを歌いたい」という思いの実現だけでなく、予想以上の経験をさせて頂きました、本当にありがとうございます。

そして、これからもよろしくお願いします。

達成感
幸福感へソプラノ
永矢留美子

☆「ソプラノさん、もっと上げて！」

☆「あくびをするように力を抜いて！」

☆「頭の奥を開けるようなイメージで！」

と、今日も小川先生の熱心なご指導が続きます。

思えば四年前。友人が見せてくれた大正区広報誌が「大正フロイデ」と私との出会でした。

次週の金曜日、練習会場の後部で見学させて頂いた私は、熊本先生の厳しくも楽しいレッスンに、すっかり魅了され、即座に入団を決めました。

その日のうちに練習にも参加させて頂き、合唱することの楽しさを実感しました。

音楽を愛する友人達との練習と、対話を交わすことは、脳神経にも良い刺激となるようです。

（大正フロイデ）発足以来、数多くの発表・出演の機会をプロデュースして下さって

いる西本先生は「音楽って楽しいでしょう！楽しいチャンネルには、みんな出来るだけ参加して欲しいねん」とおっしゃいます。

今年九月、いずみホールでの五周年記念コンサートは、入団以来の最も感動的な体験でした。

みんなお揃いの衣装でステージに立ち、指揮者から求められる音とハーモニーを、それぞれが精一杯表現したい思いに溢れていたと思います。

大勢のみなさんと、困難を乗り越える達成感は、何ものにも勝る幸福感につながります。

これからも楽しみながら、次の目標へチャレンジしたいと思っています。

西本先生はじめ、ご指導下さった諸先生方、大正フロイデの皆様、（大正フロイデ）を応援して下さいます。これからも宜しくお願ひ申し上げます。

♪アム ブルーネン
フォルデーム トーレ：♪

（菩提樹より）

